

個人の経済信用度を数値ではじき出すクレジット・スコアリングに抵抗あり!?

個人を経済的側面で点数付けするクレジット・スコアリングは、多くの日本人が拒否反応を示す可能性がある。日本では古来よりカネのあるなし、金の稼ぎ方に関する意識が諸外国と比べて希薄で

あると、一般的には言われている。

この日本社会にクレジット・スコアリングは定着する

か? この疑問に対する私の答えは「定着する」である。

日本社会も年を追うごとに貧富の格差が広がり、クレジットが関係する金融機関や商取引において、個人の信用度の重要性が高まってくることは間違いない、というのが今の私の結論である。

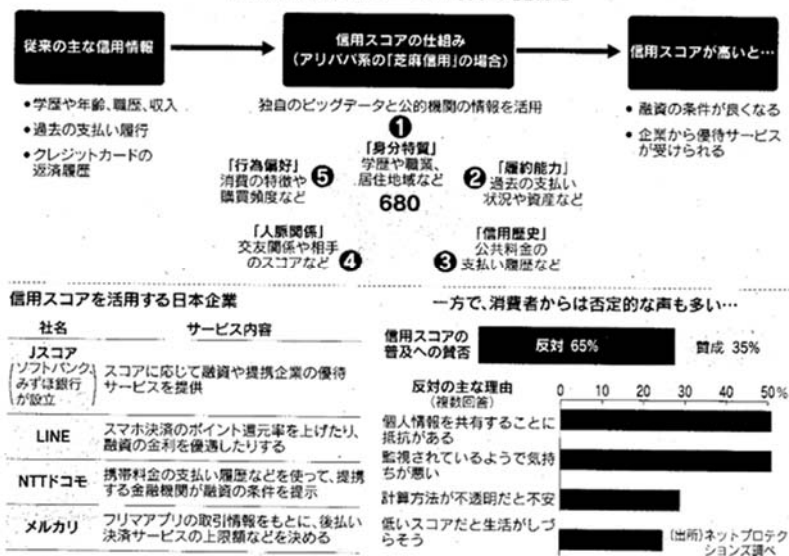
普及に賛成 日本は35%

5指標で算出
芝麻信用は世界で10億人超が使うスマートフォン決済アプリ「支付宝(アリペイ)」の機能の一つだ。①学歴や職歴など社会的身分の税金などの支払い状況や保有資産②公共料金やカードの支払い履歴③人脈や交友関係④消費の特徴――などを指標に分類し、膨大なデータをAIが分析して点数をばらけ、一定以上のスコアだと低い金利で融資を受けられたり、シェアサイクルなどのサービスやホテル予約の保証金が不要になったりする特典が受けられる。

学歴やクレジットカードの支払い履歴などのデータを使い、個人の信用を人工知能(AI)で数値化する「信用スコア」が日本でも広がりつつある。個人のニーズに沿った融資や優待を提供する糸口になるが、先行する中国では「スコア至上主義」につけ込んだ詐欺などの被害も出始めた。人の格付けが日本でインフラとして定着するには、不正対策やプライバシーの保護が課題になりそうだ。

職業や支払い履歴で「人の格付け」

信用スコアを使ったサービスが日本でも広がる



約20年前に書籍「クレジット・スコアリング入門」(E.M.ルイス、1997年)を読んだ。この本の目次および図表目次を次ページ以降に貼付した。確度の高いスコアリングを行うためには、実に多くの項目を計測して処理する必要がある。今は20年前とは事情が大きく異なり、情報は電子回線を通してより簡単に收拾でき、さらにAI(人工知能)の力を借りれば、妥当性の高いスコアリングが可能となってきた。

マイナンバー(国民総背番号制)と同じく、日本国民は個人を数値化されることを嫌がるものと考えられる。その理由として、新聞記事には、スコアリングに反対の理由として「監視されているようで気持ち悪い」とある。個人の感情と社会合理性の動きには相いれないところが大きい。しかし、現実には個人の感情を超えて変化して行くことも確かである。